

JGSS-2000調査（2000年11月）  
職業・産業コーディングインストラクション

西村幸満(東京大学社会科学研究所助手)  
石田浩(東京大学社会科学研究所教授)

SSJDA - 18  
September 2001

このワーキングペーパーは、東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターと大阪商業大学地域産業研究所の共同で行われたJGSS調査(日本版『生活と意識に関する調査』)の作業過程において、主に職業・産業コーディングのためにまとめられたものである。



## - 目 次 -

### 第1章 職業・産業コーディングの記録

1. はじめに .....	3
2. 作業過程.....	3

### 第2章 職業・産業コーディングの作業内容

1. 自由回答項目について.....	5
2. コーディング作業の準備・ .....	5
2-1. 学生アルバイトの採用・ .....	5
2-2. コード入力用ワークシートの作成.....	6
2-3. コーブック（『SSM産業分類・職業分類（95年版）』）への修正.....	8
3. コーディング作業	
3-1. 産業について記入がある場合.....	8
3-2. 職業について記入がある場合.....	8
付表1 新規 産業分類コード.....	9
付表2 新規 職業分類コード.....	9
付表3 回答者の属性変数.....	13

### 第3章 コーディング作業手順と留意点

1. コーディングの流れ.....	14
2. 注意を要する職業・産業項目	
2-1. 産業分類で注意を要するもの.....	14
2-2. 職業分類で注意を要するもの.....	15

### 第4章 JGSS-2000における職業・産業分類の留保事例のコード化

産業分類.....	18
職業分類.....	20

## 第1章 職業・産業コーディングの記録

### 1. はじめに

この冊子は、大阪商業大学地域研究所と東京大学社会科学研究所が共同で実施した日本版「生活と意識に関する国際比較調査」(Japanese General Social Surveys、以下、JGSS調査)の一環として、これまで多くの尽力によって蓄積された「職業・産業コーディング」に関する作業プロセスの記録である。また、この冊子の目的の一つには、今後引き続いて実施される予定であるJGSS-2001以降の調査だけに止まらず、職業・産業の数量化作業の効率化という目標を一部に含んだ社会調査共通の課題への貢献がある。われわれは、この冊子が今後の作業プロセスの構築やコード化における判断材料になることを期待している<sup>1</sup>。

JGSS調査とは、2000年11月実施のJGSS-2000(第1回本調査)に先立って実施された1998年と1999年の2回の予備調査に加えて、2001年～2003年までの計6回(予定)の継続調査をいう。JGSS調査には、多くの調査項目が含まれている。ここでいう「職業」と「産業」については、回答者に自由記述による回答をお願いし、われわれは、その記述をもとに調査後に数値(コード)を当てはめるアフターコード作業をおこなった。

アフターコードの手続きは、2回の予備調査では石田浩(東京大学社会科学研究所教授)と中尾啓子(東京都立大学助教授)を中心に行われた。また、JGSS-2000の職業・産業コーディングでは、引き続き石田浩が担当し、加えて西村幸満(東京大学社会科学研究所助手)が新たに全体の管理を行うことになった。また、高橋和子(敬愛大学助教授)は、職業・産業コードの自動化に向けたソフト開発(以下、名称不明のために、Takahashiとす)に着手し、その成果は、作業の効率化に多大な貢献をしている。

職業・産業コード化作業の柱には、入力による手入力コードとTakahashiによる自動コードの2つがある。JGSS-2000の作業については、コード入力後、西村が論理・入力ミスチェックを行い、最終的に不明・判断保留となった記述については、石田・高橋・西村の合議のうえ決定した。

### 2. 作業経過

JGSS-2000のアフターコーディングの作業は、Excelによる自由記述の手入力が調査会社で終了したのを踏まえて、2001年2月9日に大阪商業大学から東京大学側にデータの受け渡しがおこなわれた。当初提供された総サンプル2908について、まず、西村がExcelに100サンプルごとに分割し(29ファイルの作成)、入力の準備を整えた。実際の手入力は、『SSM産業分類・職業分類(95年版)』と、本ワーキング・ペーパーの雛型になっている石田が作成した『職業・産業コーディングインストラクション(Ver.1.1)』を参照する方式で行われた。上記の準備は、学生用に手入力の用意として進められた。同時に、高橋がTakahashiを全職業データ(本人初職、本人現職、本人最後職、配偶者職、父職)と産業

---

<sup>1</sup> この冊子の焦点は、手入力における職業・産業コーディングに限られている。ただし、この手入力の手続きには、敬愛大学の高橋和子により開発・維持されたTakahashiを用いた職業・産業自動コーディングプログラムとの相互関係が無視できない。高橋はプログラムだけでなく、手入力作業にも携わり、この冊子にも多大な貢献をしている。すでに、職業・産業コーディングの自動化については、高橋の既発表論文を参照のこと(高橋和子、2000。「自由回答のコーディング支援 - 格フレームによるSSM職業コーディング自動化システム - 」『理論と方法』No.27、149-164)

データ(本人初職、本人現職、本人最後職、配偶者職)に適用して、自動化コードによるコード化の結果を手入力の結果と参照することにした。

学生の協力によってアフターコーディングを実施したのは、2月19日～3月2日(土日祝日を除く)までの9日間であった。当初の予定では、100サンプルの手入力コードが終了するたびに、Takahashiの自動コード結果と参照し合いコード化の精度を高めていく予定であった。

2月9日の午前中は、石田によるインストラクションを行い、予定通り、本人初職の自由記述100サンプルをコード化しExcelファイルに入力後、Takahashiの自動コード化の結果に照らして、自動・手入力それぞれのコードチェックを行った。実際に作業をおこなう過程において、経験者と未経験者の間に、または未経験者同士の間にも個々の入力作業にばらつきがあることが明確になった。第1回目の手入力後に、当初の予定通り、石田・高橋・西村の3人が、学生の手入力結果とTakahashiによる自動コードの結果を照らし合わせた。その後は、上記の入力スピードのばらつきに沿って、随時、Takahashiの結果とのチェックを学生による2人1組でおこなうよう指示することにした。学生の協力による入力・チェックが終了後、各データの不整合性とコード化の判断に迷う記述については、各自保留し、その後西村が抽出して整理した。西村は4月16日にその結果を石田・高橋に発送した。3人は各自コードの検討を行い、5月のゴールデン・ウィーク後に石田と西村が、高橋の意見を参考にして最終的なコードを合議の上決定した。職業・産業コードの第1校が完成したのは、データを受け取りからおよそ2ヶ月半になるが、3月中旬から4月中旬の1カ月は、ほとんど作業が進行しなかったので、実質には、1ヶ月半前後の期間を要したことになる。

## 第2章 職業・産業コーディングの作業内容と留意点

### 1. 自由回答項目について

面接調査票には、職業・産業の自由回答箇所がそれぞれ4箇所ある。その内訳と質問のワーディングは以下のようにになっている。

A. 産業 (1)現職(または最後の主な仕事)、(2)現職の本社産業、(3)初職、(4)配偶者職の4箇所  
産業(事業所(企業)が行う経済活動の内容)のワーディングは、次のようになっている。

「あなたが働いている場所(工場、事務所、商店、病院などの事業所)はどのような事業をしていますか。」

B. 職業 (1)現職(または最後の主な仕事)、(2)初職、(3)配偶者職、(4)父職の4箇所

職業(個人が従事している収入を伴う仕事の内容)のワーディングは次のようになっている。

「あなたは通常、どのような仕事をしていますか。仕事の内容を具体的にお聞かせ下さい」

以上の項目について、それぞれ自由回答の内容からコードを当てはめる作業を行う。面接調査では、面接員にできるだけ詳しく記述をするよう指示しているが、十分な情報を得られない場合がある。その場合には、学生アルバイトのコーダーは、周りにその旨を伝えて情報を共有し、アドバイスを求める。それでも判断がつかない場合には、その記述番号を別紙に記載し、次の項に進むことを心がける。

### 2. コーディング作業の経験から

われわれは、今後予定されている本調査の実施に向けて、今回のコーディング作業を振り返り、その経験を次回に役立てることも必要であろう。そこで、コーディング作業をいくつかに分節化して、その経過を記述しておこう。

#### 2-1. 学生アルバイトの採用

今回の学生アルバイトは、過去に職業・産業コーディングを経験した東京都立大学社会学部の博士課程の院生(1年2名)と、初めて作業を行う東京大学文学部社会心理学科の3、4年生(3年生3名、4年生1名)と教育学部の博士課程の院生(1年1名)を加えた合計7名で作業を行った。

採用要件として、こちらが用意した能力は、

1. 過去に職業・産業コーディングに携わったものであることが望ましいが、
2. 「1」のような経験を持たないものであっても、最低限Excel使用経験があるもので、
3. かつ、職業・産業コーディングに関心があり、最低でも期間中の5日間程度働くことができる。

というものであった。これに加えて、われわれの意図には、次回以降の職業・産業コーディングも視野に入れ、できるだけ幅広い就学年層から採用するという投資的(教育的)意図があった。われわれは、このメンバーの中から次回以降の職業・産業コーディングの参加者がいることを期待していたのである。全体の作業過程においては、Excelの使用に個々のメンバー間に若干の格差があったが、すべての

学生は徐々に柔軟に対応できるようになった。

ただし、管理側のインストラクションがそれほど詳細に決定していたわけではなかったため、徐々に入力のマイナーチェンジを繰り返して、次のような手入力作業フォーマットが完成した。

## 2-2. コーディング用ワークシートの作成

自由回答はすでにExcelファイルにうちこまれている。当初、中央調査社から提供されたファイルの形式は以下のようにになっている。ひとりの回答者につき1行という形式で、回答者のID番号にあたる支局、地点、対象番号に引き続いて自由回答(DからM)が入力されている。

ABCカラムに支局、地点、対象番号(この3つにより回答者を区別)

Dカラム	自由回答	本人現職産業	問1(5)
Eカラム	自由回答	本人現職職業	問1(6)
Fカラム	自由回答	本人現職本社産業	問1(10)
Gカラム	自由回答	本人最後の産業	問5(6)
Hカラム	自由回答	本人最後の職業	問5(7)
Iカラム	自由回答	本人初職産業	問9(2)
Jカラム	自由回答	本人初職職業	問9(3)
Kカラム	自由回答	配偶者産業	問11(5)
Lカラム	自由回答	配偶者職業	問11(6)
Mカラム	自由回答	父職業	問25(2)

自由回答のあとに続き、各回答者の属性が入力されている。この属性はすでに数量化されて入力してあるので、職業・産業のコーディングの必要に応じて、後掲してあるコード票を参照する。

Nカラム	本人性別	
Oカラム	本人年齢	
Pカラム	本人学歴	(問27)
Qカラム	本人現職従業上の地位	(問1(4))
Rカラム	本人現職事業所規模	(問1(7))
Sカラム	本人現職企業規模	(問1(11))
Tカラム	本人最後の職業の従業上の地位	(問5(5))
Uカラム	本人最後の職業の企業規模	(問5(8))
Vカラム	本人初職の従業上の地位	(問9(1))
Wカラム	本人初職の企業規模	(問9(4))
Xカラム	配偶者の従業上の地位	(問11(4))
Yカラム	配偶者の企業規模	(問11(7))
Zカラム	父職の従業上の地位	(問25(1))
AAカラム	父職の企業規模	(問25(3))

以上のままでは、コードの入力ができないので、次の図1と図2のようにフォーマットを作成し直した。

図1 入力票の構成1

支局 地点 対象	現職産業	現職職業	現職本社産業	最後の産業	最後の職業	初職産業	初職職業	配偶者産業	配偶者職業	父職業

学生が手入力で使用するワークシートは、図1のようにになっている。まずは個人を特定する「支局・地点・対象」番号があり(そのママ)、本人現職、本人最後職、本人初職、配偶者職、父職の順に、それぞれ左側のセルに自由回答を配置し、産業・職業の自由回答の右側にコードを入力した。父職以外には職業・産業の順で配置し、現職だけは本社の産業についても尋ねている。また、入力ミスをできるだけ減らすために、産業と職業では色分けをおこなった。その方法は、産業については、濃いオレンジで統一し、職業については、自由回答をホワイト、コード入力欄をイエローにした。これによって、同じタイプの作業が連続しているために生じやすい視覚による不注意な入力ミスを減少させることができた。また、作業している自由回答欄のセル幅を拡張することで、それ以外の情報(左右の自由回答の情報)ができるだけ遮断できるように作業を指導した。

図2 入力票の構成2

年齢	学歴	現従地位	現事規模	現企規模	最従地位	最企規模	初従地位	初企規模	配従地位	配企規模	父従地位	父企規模	配偶者学歴

図2においては、本人の職業を決定する上で重要な判断材料となる「学歴」、「従業上の地位」、「企業規模」について各職ごとに記載されたものを配置してあるが、基本的な内容はほとんど変わっていない。唯一、新たに貼付した情報は、「配偶者の学歴」である。配偶者の職業を決定するのに必要となったために、急遽、貼付・挿入した。

入力にあたっては、各欄の自由記述を読み、2つのコード表を参照し、かつ本人の「学歴」、「従業上の地位」、「企業規模」を確認してコードを入力した。当初は上記のワークシート上のセルを左右に移動しながら入力を行っていたが、煩雑のために、次のように変更した。

1. たとえば、「現職職業」を入力する場合には、「学歴」までの列セルが邪魔になるので、「現職本社産業」～「年齢」までの列を選択して(反転)、非表示にするよう指示をした(右クリックして「表示しない」を選択)。この手続きをとると、「現職職業」の次のセルが「学歴」になり、視覚的にも確認動作が少なく、効率性が高い。
2. また、個人を特定してミスを少なくするために、「支局・地点・対象」を固定して所在を明白にすることにした(「ウィンドウ(W)」 - 「ウィンドウ枠の固定(F)」)。これによって、「支局・地点・対象」は常にワークシートの左側に表示される。
3. 実際に自由記述を参考にしてコードを入力するときには、入力されている文字列ごとにソートをつけて、同じ職業名の場合は一括してコードする方が効率的であると判断した(「データ(D)」 - 「フィルタ(F)」 - 「オートフィルタ(F)」)。ただし、留意しなくてはならないことであるが、各職職業の「従業上の地位」と「企業規模」によっては、「管理職」コードが入力される場合がある。



## 2-3.コードブック(『SSM産業分類・職業分類(95年版)』の修正(付表2、3を参照)

### A.産業の修正箇所

「09 卸売・小売業、飲食店」は、より細かい分析を行えるように、次の3つに分類する。

「091 卸売業」

「092 小売業」

「093 飲食店」にわけろ。

そのため、各産業のコードにゼロ(0)を付け加えるために、全体のコードは3桁になっている。たとえば、「010 農業」「020 林業」「030 漁業」「040 鉱業」などというようになる。

### B.職業の修正箇所

#### \* 『701 レジ・キャッシャー』

「559 会計事務員」の中の「スーパーなどのレジスター係員・キャッシャー」を別カテゴリーとしてとして独立させる。

#### \* 『702 大工』

「679 大工、左官、とび職」の「大工」を別カテゴリーとしてとして独立させる。

#### \* 『703 教員』

小学校、中学校、高校などの区別のないときに用いる。

#### \* 『704 製品製造作業者』

何の製品かわからないが工場で製造しているときに用いる。

#### \* 『705 会社員』

(特に父職)会社員としか記入のないときに用いる。

#### \* 『707 自営業』

## 3.コーディング作業

### 3-1.産業について記入がある場合

「86 無職」「89 学生」「98 非該当」は用いない。もし「分類できない産業」があったら、「19 分類不能の産業」とする。何も記入がない場合はブランクとする。

### 3-2.職業について記入がある場合

「986 無職」「988 大学生、短大生」「989 大学院生」「990 その他の生徒・学生」「998 非該当」は用いない。もし「分類できない職業」があったら、「689 分類不能の職業」とする。何も記入がない場合はブランクとする。

付表1 新規 産業分類コード

《産業分類コード》

010 農業	130 情報・通信サービス業
020 林業	140 医療・福祉サービス業
030 漁業	150 教育・研究サービス業
040 鉱業	160 法律・会計サービス業
050 建設業	170 その他サービス業
060 製造業	180 公務
070 電気・ガス・熱供給・水道業	190 分類不能の産業
080 運輸業	
091 卸売	
092 小売業	860 無職
093 飲食店	870 兵役
100 金融・保険業	890 学生
110 不動産業	980 非該当
120 新聞・放送・出版業、広告業、映画制作業	990 不明、無回答

付表2 新規 職業分類コード

職業コード

1. 専門的・技術的職業従事者

501 自然科学系研究者	525 盲・ろう・養護学校教員
502 人文科学系研究者	526 その他の教員
503 機械・電気・化学技術者	527 宗教家
504 建築・土木技術者	528 文芸家、著述家
505 農林技術者	529 記者、編集者
506 情報処理技術者	530 彫刻家、画家、工芸美術家
507 その他の技師・技術者	531 デザイナー
508 医師	532 写真家、カメラマン
509 歯科医師	533 音楽家（個人に教授するものを除く）
510 薬剤師	534 俳優、舞踊家、演芸家（個人に教授するものを除く）
511 助産婦	535 職業スポーツ家（個人に教授するものを除く）
512 保健婦	536 獣医師
513 栄養士	537 保母、保父
514 看護婦、看護師	538 社会福祉事業専門職員
515 あん摩・はり・きゅう師、柔道整復師	539 個人教師
516 その他の保健医療従事者	540 不動産鑑定士
517 裁判官、検察官、弁護士	541 経営コンサルタント
518 その他の法務従事者	542 アナウンサー（ラジオ・テレビ）
519 公認会計士、税理士	543 図書館司書
520 幼稚園教員	544 その他の専門的・技術的職業従事者
521 小学校教員	
522 中学校教員	
523 高等学校教員	
524 大学教員	

\* 703

## 2. 管理的職業従事者

545	管理的公務員	550	会社・団体等の管理職員
546	国会議員	551	駅長、区長
547	地方議員	552	郵便局長、電報・電話局長
548	会社役員	553	その他の管理的職業従事者
549	その他の法人・団体の役員		

## 3. 事務的職業従事者

554	総務・企画事務員	561	集金人
555	受付・案内事務員	562	その他の外勤事務従事者
556	出荷・受荷事務員	563	運輸事務員
557	営業・販売事務員	564	速記者、タイピスト、キーパンチャー
558	その他の一般事務員	565	電子計算機等操作員
559	会計事務員 *701		
560	郵便・通信事務員		

## 4. 販売的職業従事者

566	小売店主	572	商品仲立人
567	卸売店主	573	外交員(保険、不動産を除く)
568	飲食店主	574	保険代理人・外交員
569	販売店員	575	不動産仲買人・売買人
570	行商人、呼売人、露天商	576	質屋店主・店員
571	再生資源卸売人・回収人	577	その他の販売類似職業従事者

## 5. サービス的職業従事者

578	女中、家政婦、家事サービス職業従事者	586	娯楽場等の接客員
579	理容師、美容師	587	旅行・観光案内人
580	クリーニング職、洗張職	588	その他の個人サービス職業従事者
581	料理人	589	旅館主人・番頭、ホテル支配人
582	バーテンダー	590	下宿・アパートの管理人、舎監、寮母
583	給仕係	591	ファッションモデル
584	スチュワーデス、スチュワード	592	その他のサービス職業従事者
585	接客社交係		

## 6. 保安的職業従事者

593	自衛官	596	看守、守衛、監視員
594	警察官、海上保安官、鉄道公安員	597	その他の保安職業従事者
595	消防員	598	旧職業軍人

## 7. 農林的職業従事者

599	農耕・養蚕作業者	603	その他の農林業作業者
600	植木職、造園師	604	漁業作業者
601	畜産作業者	605	漁船の船長・航海士・機関長・機関士
602	林業作業者		

## 8 . 運輸・通信従事者

606	電車・機関車運転士	612	鉄道員
607	自動車運転者	613	船員
608	船長・航海士（漁船を除く）、 水先人	614	その他の運輸従事者
609	船舶機関長・機関士（漁船を除く）	615	無線通信士、無線技術士
610	航空機操縦士、航空士、航空機 関士	616	有線通信士
611	車掌	617	電話交換手
		618	郵便・電報外務員
		619	その他の通信従事者

## 9 . 採掘作業者

620	採鉱員、採炭員	622	その他の採掘作業者
621	石切出作業者		

## 1 0 . 窯業・土石製品・金属材料・化学製品製造作業者

623	陶磁器工、絵付作業者	627	製鉄工、製鋼工、精錬工
624	石工	628	鋳物工、鍛造工、金属材料製造 作業者
625	ガラス・セメント製品製造作業者	629	化学製品製造作業者
626	その他の窯業・土石製品製造作 業者		

## 1 1 . 金属製品・機械製造作業者

630	金属工作機械工、めっき工、金 属加工作業者	637	船舶ぎ装工（他に分類されない）
631	鉄工、板金工	638	航空機組立工・整備工
632	金属溶接工	639	自転車組立工・修理工
633	一般機械組立工・修理工	640	その他の輸送機械組立・修理作 業者
634	電気機械器具組立工・修理工	641	時計組立工・修理工
635	自動車組立工・整備工	642	光学機械・精密機械器具組立 工・修理工
636	鉄道車両組立工・修理工		

## 1 2 . その他製品製造作業者

643	精穀工、製粉工	658	印刷・製本作業者
644	パン・菓子・めん類・豆腐製造工	659	ゴム・プラスチック製品製造作 業者
645	味噌・醤油・缶詰食品・乳製品 製造工、飲食品製造作業者	660	くつ製造工・修理工、かわ・か わ製品製造作業者
646	たばこ製造工	661	塗装工、画工、看板工
647	酒類製造工	662	漆塗師、まき絵師
648	製糸作業者	663	表具師、内張工
649	織布工、紡織作業者	664	和がさ・ちょうちん・うちわ職
650	漂白工、染色工	665	貴金属・宝石・甲・角等細工工
651	洋服・和服仕立職	666	印判師
652	縫製工、裁断工	667	洋傘組立工
653	製材工、木工	668	かばん・袋物製造工
654	指物職、家具職、建具職	669	がん具製造工
655	船大工	670	製図工、現図工
656	おけ職、木・竹・草・つる製品 製造作業者	671	映写技士
657	製紙工、紙器製造工、パルプ・ 紙・紙製品製造作業者	672	その他の技能工・生産工程作業者

1 3 . 定置機関運転・建設機械運転・電気作業

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 673 汽かん士、汽かん火夫   | 676 発電員、変電員     |
| 674 起重機・建設機械運転作業 | 677 電気工事・電話工事作業 |
| 675 その他の定置機関運転作業 |                 |

1 4 . 建設作業

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 678 土木・建築請負師    | 682 土工、道路工夫       |
| 679 左官、とび職 *702 | 683 鉄道線路工夫        |
| 680 れんが積工、配管工   | 684 現場監督、その他の建設作業 |
| 681 豊職          |                   |

1 5 . 労務作業

- |            |              |
|------------|--------------|
| 685 倉庫夫、仲仕 | 687 清掃員      |
| 686 運搬労務者  | 688 その他の労務作業 |

1 6 . その他

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 689 分類不能の職業 | 988 大学生、短大生    |
| 690 旧地主     | 989 大学院生       |
| 691 名目上の役員  | 990 その他の生徒・学生  |
| 986 無職      | 991 分類不能の生徒・学生 |
| 987 兵役      | 998 非該当        |
|             | 999 不明、無回答     |

1 7 . 新規コード

(注) 第1回予備調査に使用した職業コードの分類に、以下の修正を加えた。

- |                           |                               |
|---------------------------|-------------------------------|
| 701 スーパーなどのレジスター係員、キャッシャー | 「559 会計事務員」から分離               |
| 702 大工                    | 「679 大工・左官、とび職」から分離           |
| 703 教員                    | 小学校・中学校・高校などが明記されていない場合に用いた   |
| 704 製品製造作業                | (特に父職で)作っている製品が明記されていない場合に用いた |
| 705 会社員                   | (特に父職で)記入が「会社員」とあった場合         |
| 707 自営業                   | (特に父職で)記入が「自営業」とあった場合         |

職業カテゴリーの分類コードについては、原則として『SSM産業分類・職業分類(95年版)』(1995年SSM調査研究会)を利用した。1995年SSM分類の使用にあたっては、東北大学の原純輔教授の許可とアドバイスをいただいた。記して感謝したい。

付表3 回答者の属性変数 (\* 配偶者の学歴、父の学歴)

- ・性別 1 男性 2 女性
- ・年齢 (回答者の実年齢)
- ・学歴(問27)
  - 1 旧制尋常小学校
  - 2 旧制高等小学校
  - 3 旧制中学校、高等女学校
  - 4 旧制実業学校
  - 5 旧制師範学校
  - 6 旧制高校・旧制専門学校・高等師範学校
  - 7 旧制大学・旧制大学院
  - 8 新制中学校
  - 9 新制高校
  - 10 新制短大・高専
  - 11 新制大学
  - 12 新制大学院
- ・従業上の地位(父職は異なる 9がない)
  - 1 経営者・役員
  - 2 常時雇用の一般従業者 役職なし
  - 3 常時雇用の一般従業者 職長、班長、組長
  - 4 常時雇用の一般従業者 係長、係長相当職
  - 5 常時雇用の一般従業者 課長、課長相当職
  - 6 常時雇用の一般従業者 部長、部長相当職
  - 7 常時雇用の一般従業者 役職はわからない
  - 8 臨時雇用・パート・アルバイト
  - 9 派遣社員
  - 10 自営業主・自由業主
  - 11 家族従業者
  - 12 内職
  - 13 わからない
- ・事業所規模(最後についた職業、初職、配偶者職については、「12 官公庁」となっている。現職の場合は、本社の事業(問1(10))のところで「官公庁」は特定できる。父職は4カテゴリー)

現在の職業		父職
1 1人	8 500～999人	1 1人
2 2～4人	9 1000～1999人	2 小企業(2～29人)
3 5～9人	10 2000～9999人	3 中企業(30～299人)
4 10～29人	11 1万人以上	4 大企業(300人以上)
5 30～99人	12 わからない	
6 100～299人		
7 300～499人		

### 第3章 JGSSのコーディング作業の手順

#### 1. コーディングの流れ

- (1) コードブックにざっと目を通し、全体を通しての分類を頭にいれる。
- (2) 配布されているフロッピー・ディスクからファイルをハードディスクにコピーし、Excelを立ち上げファイルを開く。
- (3) まず「現職」のカラムのコードを行う。自由回答を読み、これに対応するSSM95職業分類コードを探し出し、となりの空白カラムにコードを打ちこむ。この作業をすべての回答者(回答者1人につき、1行)についておこなう。次に、「最後の仕事」カラム、「初職」カラム(現職、最後の仕事が参考になる)、「配偶者職」カラム、「父職」カラムの順に取り組む。
- (4) フロッピーディスクにあるすべての回答者についてコーディングが終了したら、コードチェックをおこなう。自動コーディングによるコードと手動コーディングによるコードの結果をプリントし、2つのコードの対応をチェックし、異なるものについて検討を加える。コーダーとチェック係で検討し、最終的なコードを確定する。確定がむづかしい場合は、監督者の指示を仰ぐ。

#### 留意点:

最初に全体を通しての分類を頭にいれる

職業分類項目のリストはコードブックの20-24ページ、職業名索引は116-120ページ

なるべく「689 分類不能の職業」としないように努力する。他の項目(従業上の地位、従業員規模、学歴)なども、必要があれば参考にする。

定かでないものについては、?をつけておく。

#### 2. 注意を要する職業・産業項目

##### 2-1. 産業分類で注意を要するもの

産業分類は、大分類である18分類を採用している。基本的にSSMの産業分類(SSM95)を採用しているが、コード化にあたって留意しなくてはならない点がある。それは、SSMのコードが2桁の数値コードを当てているのに対して、JGSSでは3桁の数値コードを当てていることである。このコードの対応表を以下に添付する。

図 産業コード対応票

産業名	SSM95	JGSS	産業名	SSM95	JGSS
01 農業	01	010	13 情報・通信サービス業	13	130
02 林業	02	020	14 医療・福祉サービス業	14	140
03 漁業	03	030	15 教育・研究サービス業	15	150
04 鉱業	04	040	16 法律・会計サービス業	16	160
05 建設業	05	050	17 その他サービス業	17	170
06 製造業	06	060	18 公務	18	180
07 電気・ガス・熱供給・水道業	07	070	19 分類不能の産業	19	190
08 運輸業	08	080			
09 卸売	09	<b>091</b>			
09 小売業		<b>092</b>	86 無職	86	860
09 飲食店		<b>093</b>	57 兵役	87	870
10 金融・保険業	10	100	89 学生	89	890
11 不動産業	11	110	98 非該当	98	980
12 新聞・放送・出版業、広告業、映画制作業	12	120	99 不明、無回答	99	990

また、従来の産業大分類に比べて、SSM95とJGSSのコードの産業分類は、「サービス業」について、複数区分を用いている点にも注意が必要である。さらに、すでに第2章2-3. でみたように、「09 卸売・小売業、飲食店」は、「091 卸売業」、「092 小売業」、そして「093 飲食店」の3つにわけなければならない。

産業のコード化については、2つのポイントがある。まず、「サービス業」をどのように分類するかという点であり、次に これまで一括してコード化してきた「09 卸売・小売業、飲食店」をどのように分類するかという点である。これらについて、JGSS-2000までの経験で得られた分類例を示す。

#### 分類例：産業

「造園業」「植木職」	「010 農業」(その他のサービス業ではない)
「電気(設備)工事」	「050 建設」(電気業ではない)
「印刷」「製本」	「060 製造」(出版業でない)
「コピー」	「170 その他のサービス」(出版業でない)
「豆腐屋、菓子屋など」	「092 小売業」(製造業でない)
「デパート」	「092 小売業」(卸売業でない)
「郵貯・簡保」	「100 金融・保険業」(情報・通信サービスではない)
「保育所」「託児所」	「医療・福祉サービス」(その他のサービスでない)
「公民館」	「150 教育・研究サービス業」(その他のサービスでない)
「駐留軍」「米軍基地」	「170 その他のサービス」
「人材派遣」	「170 その他のサービス」
「学習塾」	「170 その他のサービス」
「スポーツクラブ」	「170 その他のサービス」
「(戦時中)海軍、陸軍」	「180 公務」
「ガススタンド」	「092 小売業」(その他のサービスではない)
「新聞販売店」	「092 小売業」

#### 2-2. 職業分類で注意を要するもの

職業分類は、小分類である188分類+6分類を採用している。もともとは、産業分類と同様に、SSMの職業分類(SSM95)を採用しているが、第2章2-3で示したように、必要と思われる新規分類を6つ付け加えた。

職業のコード化についても、2つのポイントがある。まず、「管理職」のコード化には、A「従業上の地位」とB「従業先規模」の2つ(あるいはC「役職」を含めた3つ)の複合的な判断で決定しなくてはならない。その方法は、以下(1)に示すとおりである。次に、「土木・建設・建築の仕事」、「土建業」、そして「現場監督」という3つの関連の深い職業の判定は、自由回答だけでは判断できない。そこでこれも同様にA「従業上の地位」とB「従業先規模」の2つによって一定の方法でコードを決定していく。この方法も以下(2)に示すとおりである。

と 以外の問題は、産業と同様にこれまでの経験から分類例(3)を示す。



(1)「管理職」のコードについて

(以下は原則であり、仕事の内容が管理的としか言えないときは、管理的職業にコードする)

従業上の地位が「1 経営者・役員」「10 自営業主・自由業主」の場合

規模 5 人未満 必ず、管理的職業以外の仕事の内容でコードする。

規模 30 人未満 管理的職業以外の仕事の内容を優先してコードする。

規模 30 人以上 原則としていずれか該当する管理的職業でコード

(「548 会社社長」など)するが、

それ以外の仕事の内容が書いてあれば、それに従ってコードする。

従業上の地位が「2-7 常時雇用一般従業者」「8 臨時」「9 派遣社員」「11 家族従業者」の場合

役職が「課長」以上のとき

規模 5 人未満 必ず、管理的職業以外の仕事の内容でコードする。

規模 30 人未満 管理的職業以外の仕事の内容を優先してコードする。

規模 30 人以上 原則としていずれか該当する管理的職業でコード(「548 会社社長」など)

するが、それ以外の仕事の内容が書いてあれば、それに従ってコードする。

役職が「係長」以下のとき

必ず、管理的職業以外の仕事の内容でコードする。

(2)「土木・建設・建築の仕事」、「土建業」、そして「現場監督」のコードについて

従業上の地位が「1 経営者・役員」「10 自営業主・自由業主」の場合

規模 30 人未満 「678 土木・建築請負師」

規模 30 人以上 「548 会社社長」

従業上の地位が「一般従業者、役職なし」「臨時雇用」「派遣社員」の場合

「682 土工」

従業上の地位が「一般従業者、班長、係長、課長」の場合

「684 現場監督」

従業上の地位が「一般従業者、部長」の場合

規模 30 人未満 「684 現場監督」

規模 30 人以上 「550 会社の管理職員」

「現場監督」 自営業主の場合は「678 土木・建築請負師」

多少仕事についても記述があれば「679 左官・とび職」などに分類

非自営で、大卒の場合 「504 建築・土木技術者」

上記以外の場合 「684 現場監督・その他の建築作業員」

(3) その他のコード例(事前例)

職業分類の事務職内の分類(総務・企画事務、受付・案内事務、会計事務など)はあまり神経質にならない。(但し「スーパーのレジ・キャッシャー」は要注意「701 レジ」)。

単に「事務」 「554 総務・企画事務員」とする。

「営業マン」 「557 営業・販売事務」

(外交、外回り)「573 外交員」

「自動車部品製造」 「633 一般機械器具組立工」

「旅館の女中」 「583 給仕係」  
「ホームヘルパー」 「578 女中、家政婦、家事サービス職業従事者」  
「自動車教習所指導員」 「607 自動車運転者」  
「テニス公認指導員」 「539 個人教師」  
「(世論)調査員」 「562 その他の外勤事務」  
「郵便配達員」 「618 郵便・電報外務員」  
「宅配便配達」 みづから自動車運転に従事している場合「607 自動車運転者」  
それ以外「686 運搬労務者」  
「ヤクルトレディース」 「686 運搬労務者」  
「スーパーで資材の搬入」 「685 倉庫夫」  
「豆腐の製造・販売」 「644 パン・菓子・麺類・豆腐製造工」  
但し 販売のみは「566 小売店主」

「皿洗い」「洗い場」 「583 給仕係」  
「テレビ・プロデューサー」 「534 俳優、演出家」  
「室内装飾」 「684 現場監督、その他の建設作業員」  
「壁紙はり、ふすまはり」 「663 表具師」  
「事務(銀行、金融)」 「559 会計事務」

## 第4章 留保事例の最終的なコード結果

ここでは、参項までに、JGSS-2000 における職業・産業コーディングで判断しにくかった事例を列挙している。「」内の数字は暫定コードを検討したものであるが、破線セル内のものが最終コードになっている。

### 1. 産業分類

産業分類別暫定コード	最終 コード	産業分類別暫定コード	最終 コード
<b>「050」建設業</b>		<b>「092」小売業</b>	
設計事務所	170	写真のD P業	170
配管施工 「170」	050	新聞店	092
電気工事の会社の本社 「170」	050	コーセー化粧品勤務	060
電気工事業 「170」	050	牛乳販売店	092
電設備 「170」	050	仕出し業 「093」	092
住宅産業 「050」	050	仕出し 「093」	092
2ビル管理 「110」	110	靴の製造販売 「060」	060
サッシの取り付け 「170」	050	電気機械の製造販売 「060」	060
音響設備設置取付け 「170」	170	飲食店 ほっかほっか亭 「093」	092
解体業 「050」	050	呉服店 「060」	091
住宅設備 ショールーム 「091」	050	トヨタ、フォークリフト販売業	091
電話工事店 「170」	050		
<b>「060」製造業</b>		<b>「093」飲食店</b>	
電子機器の開発、設計会社 「060」	060	お弁当や 「092」	092
「??？」		ファーストフーズ店	093
自動車販売、修理 「091」	091	マクドナルド（ハンバーガー等の製	093
卸電キ 「091」	091	造、販売）	
自宅（ミシン、裁断）「060」 170	060	<b>「100」金融・保険業</b>	
シルバーセンターからカルピス食品	060	共済保険事業 「140」 or 「180」 = 社	100
「060」 「」		会保険事業？？	
仕出し、弁当の製造	060	<b>「110」不動産業</b>	
カラーフィルターの検査	060	警備会社 ビル管理（110）との関係	170
調理店（おかずを作ってスーパーへ卸	060	警備員 従業先の関係	170
2受注・納品	060		
同業？？	060	<b>「120」新聞・放送・出版業、広告業、</b>	
裁断	060	<b>映画制作業</b>	
洋服の仕立て	170	ライター 「170」	120
NTTで図面ケーブル	050	レコード会社	120
フォークリフト販売営業所	091	新聞店（配達）	092
工業製品（ゴム製品）の販売	091		
菓子、うどん	091	<b>「130」情報・通信サービス業</b>	
電子機器の開発、設計会社	060	コンピュータソフトの販売 「091」	130
写真セイハン	060	コンピューター	060
セーターのプレス	060	コンピューターソフトウェア開発	130
建築土木（トテラポット等）	050	「060」	
		コンピューターソフト製造 「060」	060
<b>「080」運送</b>		コンピューターの事務	130
倉庫業	080	コンピューター関係事業	130
新聞輸送（新聞社から小売店）	080	商業興信所、信用調査 「170」	
冷蔵庫業務 冷凍物をあづかる仕事	080		
		<b>「091」卸売業</b>	
		食品（アイスクリーム、ゼリー、カ	060
		レー）製造販売	
		医療品の販売	091
		O A機器の販売修理	092
		事務機器の営業・販売	092
		真珠会社事務	092

産業分類別暫定コード

最終  
コード

産業分類別暫定コード

最終  
コード

## 「140」医療・福祉サービス

シルバー人材センター	「170」	170
一般家庭宅	「170」	170
外科病院の給食全般	「093」	092
鶏の衛生管理事業所	「140」	170
デイサービスセンター	「170」	170
調理士（保育園の給食）	「093」	140
シルバーセンター	「170」	170
シルバー関係でグリーンパトロールを する	「170」	170
環境衛生組合	「170」	170

## 「150」教育・研究サービス業

川崎市財団法人 公園管理		170
水の分析		150
検査、水質		150
遺跡発掘		150
館の借館業務		110

## 「170」その他のサービス業

企業経営の保育施設	「140？」	140
山形イセキ		190
学校給食	「093？」	092
設計事務所	「050？」	170
製図業		170
建築の設計	「050」 「170」	170
建築設計事務所	「050」 「170」	170
測量設計	「170」	170
コンピューター業務		130
ビル管理業		110
ひたちなか市 シルバー人材センター		170
シルバー人材派遣業		170
ビルの管理サービス	「110」	110
設計事務所	「050」 「170」	170
電気工事会社（大阪）	「170」	050
建築大工		050

## 「190」

会社の会計業務全般（会計事務所）		160
中央区 慶応倶楽部OB会のお世話 「??？」		160
警察官	「180」	180
消防署	「180」	180
自衛隊	「180」	180

会社員

\* 職業との関連で判断

給食の仕事、斡旋業

092

2. 職業分類(カッコ内は産業に関する記述)

職業分類別暫定コード(カッコ内は産業記述)	最終 コード	備考:
<b>「505」農林技術者</b> (JAみやぎ仙南生活指導)組織指導 (農協)農協の中にカントリー(米や野菜の倉庫)の中の 営農関係(農家経営の研究)	550 550	農業の指導と判断 農業の指導と判断
<b>「507」その他技師・技術者</b> (コンクリート製造)エンジニア、技術者	504	
<b>「516」その他の保険医療従事者</b> 臨床工学技師	516	
<b>「539」個人教師</b> (教育と研究)教育と研究 (教育と研究)講義、授業、企画運営と	524 539	従業上の地位、規模より判断
<b>「544」その他の専門的・技術的職業従事者</b> かぎっ子世話係 福祉事務所職員指導員	578 538	
<b>「550」会社・団体等の管理職員</b> 現従業地位「5=課長」+規模「5=30-99」 現従業地位「5=課長」+規模「4=10-29」	管理職 職業優先	
<b>「554」総務・企画事務員</b> 区民年金課 国民年金の受給、支払 クリーニングの受け付け事務 クリーニング受付、引渡し ガス工事の施工管理 ケア、マネージャー システム関係 (クレジット会社)一般事務 (病院)検査士 (証券会社の)事務の仕事 アパレル系の輸出入の事務 (保険会社)事務員 (共済保険事業)経営管理(役職なし)	「559?」 「559」 「577」 「577」 680 538 565 559 516 554 「556?」 「558?」 「558?」	クレジット会社から判断
<b>「555」受付・案内事務員</b> クリーニング店の受付	「557」 577	
<b>「556」出荷・受荷事務員</b> 機器の製造の管理の仕事	550	役職、従業上の地位、規模
<b>「557」営業・販売事務員</b> プロダクションマネージャー 営業部長 (商品開発(消費者が必要としている商品をメーカーへア ドバイスする会社)アドバイザー「541」)	532 550	役職、従業上の地位、規模
<b>「558?」その他の一般事務員</b> (総合建設業)技術関係	684	
<b>「569」販売店員</b> レジ係・販売員 設備全般の管理 (デパートの)レジ係・販売員 (書籍販売の)レジ及び納品 (文房具店の)レジと販売 (ゴルフショップの)レジ、販売 (スーパーの)レジと販売 (総合流通業)ポップライター	「701」 「677」 569 688 569 569 569 569 701 528	デパートで従事 スーパーの設備というので

職業分類別暫定コード（カッコ内は産業記述）	最終 コード	備考：
<b>「573」外交員（保険、不動産を除く）</b> （製薬会社）プロパー	「572」 554	
<b>「577」その他の販売類似職業従事者</b> クリーニングの取り次ぎ	「577」 577	
クリーニング取次	「577」 577	
クリーニングの取りつぎ	「577」 577	
<b>「578」女中、家政婦、家事サービス職業従事者</b> （障害児リハビリ）リハビリを行う	538	児童関係の為
（獣医さんの所）先生の手伝い	「592」 592	
<b>「586」娯楽場等の接客員</b> マージャン店の経営	「586」 553	役職、従業上の地位、規模
<b>「592」その他のサービス職業従事者</b> （ビル管理会社）設備機器管理	「592」 592	
<b>「601」畜産作業</b> 卵の洗浄	601	
<b>「630」金属工作機械工、めっき工、金属加工作業者</b> サッシの製造	630	
<b>「631」鉄工、板金工</b> サッシの製造	630	
<b>「633」一般機械組立工・修理工</b> 銃身調整	「630」 630	
<b>「634」電気機械器具組立工・修理工</b> 半導体はここに分類		
<b>「642？」光学機械・精密機械器具組立工・修理工</b> （事務所 環境測定）現場で環境測定機の精度試験	642	
<b>「672」その他の技能工・生産工程作業</b> 商品のネダン付け	569	
小学館の附録等の組立	688	
割り箸の包装作業	672	
水引き加工品の組工、品物に取り付ける	688	
パッケージの仕事	686	
魚を梱包する仕事	686	
袋詰め作業	672	
内職（供花を作る）	672	
おもちを紙で包む	672	
流れ作業でシールをはったりする軽作業	672	
包装	672	
袋詰め包装工	672	
作業（箱詰め、ひも切り）など	686	
袋詰めなど作業	672	
<b>「684」現場監督・その他の建設作業</b> （総合建設業）技術関係を684に	684	
<b>「688」その他の労務作業</b> 工場機械作動員（コンピュータ）	688	

職業分類別暫定コード（カッコ内は産業記述）	最終 コード	備考：
<b>「689」分類不能の職業</b>		
薬品のショリ 工場内	「629」	629
ガラス製造会社の仕事	「625」	625
せいちょうの家 奉仕	「688」	999
運送会社勤務	「607」	607
日本ビール	「647」	674
病院	「689」	689
兄弟と共同経営（内容不明）	「689」	999
造船所	「637」	637
愛媛大学内で農業との事	「688」	688
建設材料商社	「550」（課長、規模不明）	
造船の下請	「633」	631
国鉄（技術系）	「636」	636
土木業で使う機械？	「674」	674
コンピューター関係の自営業	「506」	506
水石加工業	「624」	624
<b>経営者の分類例：</b>		
経営者？？		コード例： 531、548、553、554、 566、567、568、573、575、586、607、 625、630、633、649、653、658、659、 677、678
経営者（1人で全てを行う）	「549」	役職、従業上の地位、規模で判断すると、 548と553だけが経営者にコード化 658